

備中松山城の新たな見どころ

史跡 備中松山城跡

下太鼓の丸跡

備中松山城に登るには、ふいご峠の駐車場に車を止め、そこから北の山頂にある天守をめぐり進むというのが一般的だと思います



下太鼓櫓台

が、実は、駐車場の南側にも国の史跡指定を受けた場所があるのをご存じでしょうか。

「下太鼓の丸」と呼ばれるこの場所は、備中松山城のある臥牛山から南に突き出した前山の山頂にあつて、非常に見晴らしがよく、城を守る上で重要な拠点であつたと思われれます。

「太鼓」という名の由来は、山すそにある御根小屋（城主の御殿および政庁＝現在の高梁高校の場所）と山頂の天守との間を連絡、通信するための太鼓が置かれたことによると考えられています。ふいご峠の駐車場から天守までの途中にある「中太鼓櫓跡」もこれと関連する施設でしょう。

石垣に囲まれた下太鼓の丸跡の頂上（標高三二〇メートル）には、建物の基礎の石積みが残っています。これが「下太鼓櫓」の櫓台です。平成一九年に行つた発掘調査によつて、一〇・五メートル×六・四メートルの長方形の櫓台が明らかになりました。櫓台の高さは四〇センチ×七〇センチで、北東と北西の二か所には出入口と思われる石段が付いています。また、周辺からは焼けた土や瓦が多く出土したことから、下太鼓櫓は火災にあつて焼失したらしいということも分かりました。

それでは、この櫓台の上にはどのような建物が建てられていたのでしょうか。それを知る手がかりとして、江戸時代に描かれた絵図があります。備中松山城の下太鼓櫓を描いた絵図は数種類ありますが、中でも三重県亀山



下太鼓櫓絵図
(亀山市歴史博物館蔵)

市に伝わる一八世紀前半頃の絵図は、比較的大きく写實的に描かれているので、参考にあります。平屋建てで屋根は入母屋造り、壁には黒い腰板が貼られ、窓には小さな庇が付いている、などの特徴を見て取ることができま

す。下太鼓の丸跡は、ふいご峠の駐車場に隣接するという便利な場所でありながら、これまで十分な整備がなされておらず見学が困難な状態でした。高梁市教育委員会では、平成一九年度から二〇年度にかけて史跡整備工事を行い、駐車場からの遊歩道や、石垣、櫓跡などを整備しました。今年四月から、備中松山城の新たな見どころとして公開しています。ぜひ足を運んでいただきたいと思ひます。
(文・岡山県古代吉備文化財センター総括主任 尾上元規さん)

